

1983年（昭和五十八年）夏 麻原は東京都渋谷区桜丘に、仙道・ヨーガ・東洋医学などを統合した（超）能力開発の指導を行う学習塾「鳳凰慶林館」を開設。（ウィキペディアによる）

1984年（昭和五十九年）二月 麻原は学習塾「鳳凰慶林館」をヨガ道場「オウム」に変更し、五月二十八日には株式会社オウムを設立。（ウィキペディアによる）

1985年（昭和六十年）五月 麻原は神奈川県三浦海岸で修行中に、「アビラケツノミコトになれ」との天から降りてきた神の声を聞いた。この体験について『トワイライトゾーン』十月号で述べる。また、「二〇〇六年には、核戦争の第一段階は終わっているでしょう。日本も死の灰の影響を受けているはずす。核戦争は、浄化の手段です。すね。」などと話す。

1985年（昭和六十年）十二月 オウム神仙の会の信者は十五名。

1986年（昭和六十一年）四月 麻原はヨガ道場「オウムの会」を宗教団体「オウム神仙の会」と改称。（ウィキペディアによる）

1986年（昭和六十一年）七月 麻原はヒマラヤで最終解脱と称す。（ウィキペディアによる）

1987年（昭和六十二年）七月 「オウム神仙の会」を「オウム真理教」に改称。（ウィキペディアによる）

1988年（昭和六十三年）九月二十七日 富士山総本部道場で修行していた在家信徒の真島照之氏の死亡事故。隠蔽のために真島氏遺体損壊事件を起こす。この際、麻原が「これはヴァジラヤーナへ入れというシヴァ神からの示唆だな」と話す。

1988年（昭和六十三年）十月二十八日 麻原は一般出家者に対してヴァジラヤーナの救済を推進する意思を表明したと考えられるの説法をする。この説法を説いたころ、麻原は『ヨハネの黙示録』の解読を試みており、自身が世界大戦を起こし、諸国民を支配すると解釈していた。

1988年（昭和六十三年）十一月十五日 麻原は宮前一明に対し人材の獲得を指示した。

1988年（昭和六十三年） 「シッシャ（出家者）狩り」の結果、同年末から翌年

三月の年度末までに約百人の在家信徒が出家した。広瀬健一も1989年（平成元年）三月三十一日に出家する。

1989年（平成元年）二月十日 田口修二氏を殺害する。

1989年（平成元年）四月七日から同二年三月ごろ 麻原がヴァジラヤーナの救済に関する教義を一般出家者に対して説く。

1989年（平成元年）四月二十五日 宗教法人の認可を求め、麻原は百人を超える出家者と共に都庁・文化庁に押しかけ、示威的に陳情した。

1989年（平成元年）五月ごろ 麻原は宮前ら側近の大師に対し衆院選出馬の意向を示す。

1989年（平成元年）八月ごろ 麻原が当時の東京四区から立候補することを前提に、教団は派手な選挙活動を始める。

1989年（平成元年）十月 『サンデー毎日』がオウム真理教批判を始める。

1989年（平成元年）十一月四日 坂本弁護士一家殺人事件を起こす。

1990年（平成二年）一月 「真理党」を結成し、麻原ら教団関係者二十五人が東京・埼玉・神奈川の選挙区において、二月十八日投票の衆院選に立候補する。しかし、結果は全員落選だった。

1990年（平成二年）三月ごろから六月 教団は山梨県西八代郡上九一色村富士ヶ嶺の施設で、ボツリヌス菌の培養によるボツリヌス・トキシンの生産を試みる。

1990年（平成二年）四月十日ごろ 麻原はボツリヌス・トキシン散布計画を明らかにしたの説法をする。麻原は石垣島へのツアーを組み、本計画の従事者以外の出家者・在家信徒・出家者の家族らを避難させようとした。

1990年（平成二年）五月ごろ 菌ができたと遠藤が判断。教団は在家信徒らを出梨県富沢町の教団施設に避難させたが、不発。

1990年（平成二年）六月ごろ 顕微鏡によるチェックによって、種菌ができていないことが判明。

1990年（平成二年）六月三十日 麻原はボツリヌス・トキシン散布計画の中心的従事者を極厳修行（修行のみに専念する状態）に入れ、本計画を中断。

1990年（平成二年）八月上旬、プラントを再使用可能な形で熊本県波野村の教団施設に移動したが、その後使用せず。

1994年（平成六年）六月頃 麻原は、自動小銃製造についての会合の際に、「アビラケツノミコトになれ」との啓示がヴァジラヤーナの救済の始まりだったと述べた。

1994年（平成六年）六月二十七日 松本サリン事件

1995年（平成七年）三月二十日 地下鉄サリン事件

1995年（平成七年）五月一六日 麻原は山梨県西八代郡上九一色村のオウム真理教の教団施設で地下鉄サリン事件の首謀者として逮捕された。